

THE ULTIMATE SPORTFISHER

HATTERAS GT70

「HATTERAS YACHTS(ハトラス)」伝統のコンバーチブルが、「GT」の名と共に復活を遂げた。

美しいカロライナフレアとタンブルホームを身にまとい、伝統のカロライナスタイルに回帰。

しかも、決して過去に戻ったわけではない。上質なインテリアにさらなるスピードとシーワージネスも手に入れ、

GRPスポーツフィッシャーの雄として君臨した強いHATTERAS GTとして戻ってきたのだ。

HATTERASが、そのプライドをかけて送り出す最強スポーツフィッシャーのフラッグシップ。それが「HATTERAS GT70」だ。

text: Yoshinari Furuya photo: Makoto Yamada

special thanks: HATTERAS YACHTS International Sales www.hatterasyachts.com



芸術的な美しさを見せるカロライナフレアとクラシカルなタンブルホーム 輝くPalma Blueのハルカラーに、カーボントランサムボード、MTU 16Vのハイパワー レジェンダリービルダー「HATTERAS YACHT」渾身のフラッグシップ、令和の海に降臨す

2011年のマイアミポートショーにて鮮烈なデビューを果たした「HATTERAS GT」シリーズ。コリンズアベニュー沿いのフローティングエリアには「GT54」、「GT60」、「GT63」の3モデルが展示され、多くの来場者が見学に訪れていた。ポートショー終了後、フォートローダーデールのBahia Marをベースに、大西洋のうねりの中で同時にこれら3モデルをシートライアル。美しいカロライナフレアとクラシカルなタンブルホーム、原点回帰を果たしたカロライナスタイルの3モデルが桟橋に並ぶ光景が鮮明に思い出される。

卓越した「HATTERAS GT」の走り、ヘルムの感覚は今でも忘れられない。GRPスポーツフィッシャーの一時代を築いた「HATTERAS YACHTS(ハトラス)」が完全復活を果たしたことを世界に知らしめる、衝撃的なGTシリーズのデビュー。それはVIKING YACHT一強時代に風穴を開ける存在にもなった。

その後GTシリーズは、好調なセールスにより、続々とニューモデルが投入されてきた。2016年には、GTシリーズのフラッグシップ「GT70」が登場。さらに「GT59」、そして、HATTERAS YACHTSビルダー60周年の

記念の今年、「GT65 Carolina」が登場する。アメリカ本国でニーズの高い3つのサイズがニューモデルに刷新され、ブラッシュアップ。ラインナップは完成度を増している。そして、節目となる令和元年の今年、「GT70」が日本に初上陸を果たし、令和初のJIBTに登場する。

FRP製のコンバーチブルを世界で初めて建造したレジェンダリービルダー HATTERAS。常にスポーツフィッシャーをリードし、ベンチマークとして君臨し続けてきたトップビルダー。ポートビルディングの革命児が重ねた半世紀を超える技術の集大成。「HATTERAS GT70」が日本の海を駆け抜け、日本のスポーツフィッシングカルチャーの歴史を塗り替える。

*

桟橋に係留された「GT70」の美しくも堂々とした姿。Palma Blueのハルカラーは、太陽の光、海面の反射を受けて濃淡や発色を変え、見る者を魅了する。全長70フィート6インチ(21.49m)の体躯がもたらす低重心のデザイン。パウデッキの長さ、ロングノーズのグッドバランス、そして低く薄く感じさせるトランサム。デッキに人がいなければ、遠目には大きさがわからないが、近づけば、壁のように聳える船体やパウデッキの高さ、覆い





かぶさるように迫るパウフレアの迫力に圧倒される。アメリカ本国ですら決して多くはない20m超えのスポーツフィッシャー。その存在感は驚異的ですらある。

そして、このHATTERASのトランサムボードは、数々のスポーツフィッシャーを見てきた者たちをも釘付けにする。それは、飛行機や車だけでなく、最近では船でも注目される軽量高硬度のカーボンを使っていること。HATTERAS登場以前のウッドランボート時代から続く美しいチークトランサムの伝統とは180度異なる最新モードに身を包む。スピードだけでなく「軽量化=低燃費」からエコ素材として使われることが増えているカーボンは、現代を象徴する素材。本国アメリカでも、カスタムビルダー SPENCER YACHTSのトランサムに採用されたばかり。カーボンをトランサム全面に使うのは、私の知る限り日本では初である。見た目も

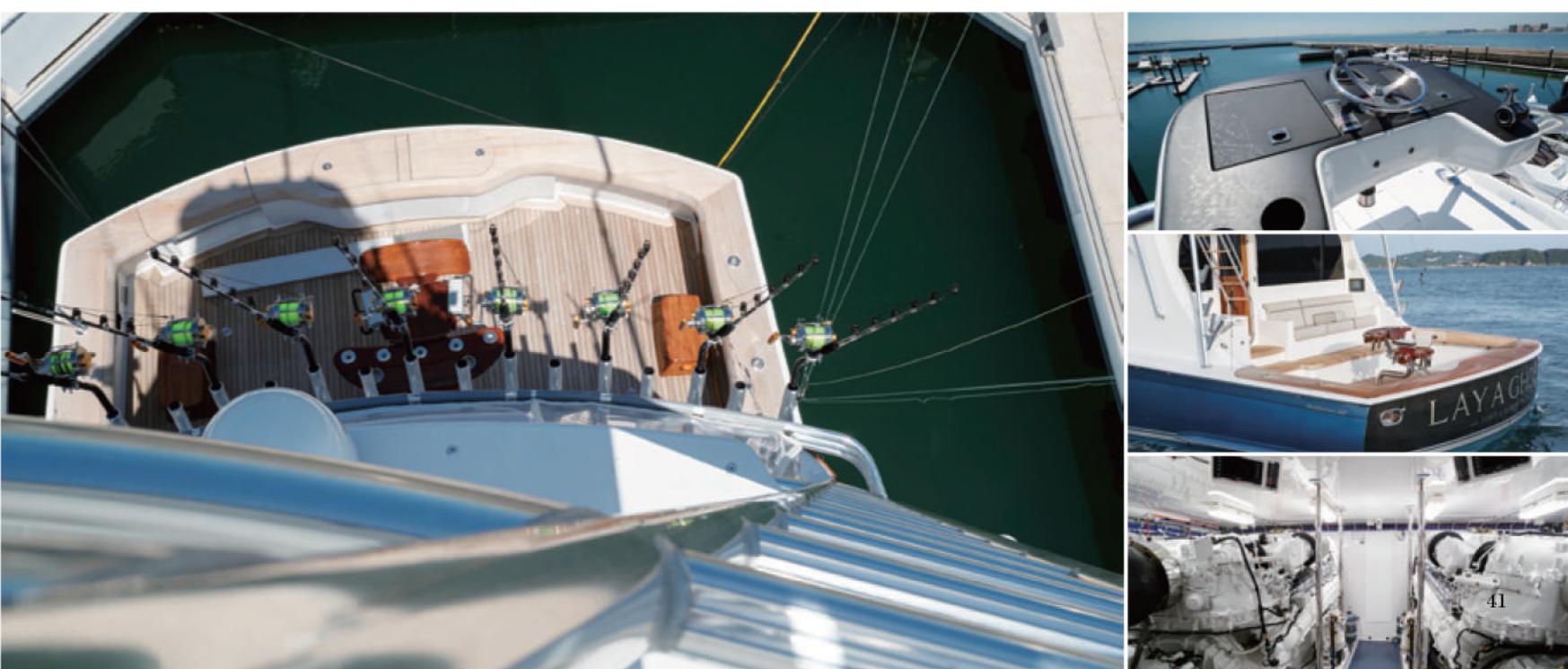


クールなデザイン、高い後進性能と強度をもたらす大きくカーブしたトランサムの3次元で複雑な形状に合わせて成型されたカーボンボード。高い技術で作られたカーボントランサムは、見た目だけでなく、ビルやルアー、フックのヒットから船体を守り、しかも軽い。エッジの効いたスバルタンな個性を光らせる。このトランサムの存在感は、トーナメントに集まるコンペティターを威圧することになるだろう。

カーボントランサムと対照的に、無垢のチークで覆われたブルワークとチークデッキはオーソドックス。機能だけでなく、優しい表情を見せる。チークで覆われたトランサム上部には、大型のベイトタンクが備わり、ライブベイトにも対応する。アフトデッキの前後長は2,730mm、幅は5,200mmにも及び、センターからでは左右舷までロッドの先が届かない。カジキが近づくだけで、ラインがブルワークに当たってしまう。そのため、このRELEASE MARINE製の



チークの造形とバーニッシュが調度品の輝きを見せるRELEASE MARINEのパイロットシート。そのバーニッシュに合わせられた、チーク製のコントロールパッド。スイッチなど突起物を表に出さないコンソールは、ミニマルで美しい。迫力のツナタワーは海面から10m以上の目線となる。圧倒的な高さは、視認性が高いだけではなく、その迫力は他のスポーツフィッシャーを寄せ付けない。





ダウンライトが反射し、輝きを見せるピアノフィニッシュのインテリア。キャビネット、カウンターチェア、カフェテーブル。上質なチークだけを使った色やバーニッシュ、見事に揃えられた木目。家具の街ノースカロライナから生まれたHATTERAS YACHTS伝統のインテリアは時代を超えて受け継がれている。

ファイティングチェアには、ピッグボートの常識である、クランクし左右にアンガーが移動できるペデスタルが搭載されている。

アフトデッキ前部は、現代スポーツフィッシャーのスタンダードでもあるメザニンシート。ポートサイド側4分の1ほどにオフセットされた分厚く上質なチークステップを2段上がると、メインサロンのフロアレベルに合わせられた高さ約46cmのメザニン。ステップの正面はキャビンドア。そのポート側には、上部にBBQグリルを備えたタックルボックスとフライブリッジに上がるためのラダー。キャビンドアの右側には、4人がゆったりと座ることができるワイドなメザニンシート。パーティーでは、見晴らしの良いラウンジとなり、トローリングではデッキハンドの見張り席となる。メザニン

シートの足元は床下収納。冷凍庫や冷蔵庫、物入れとして、多目的なストレージとなる。

センターの座面を上に上げれば、大きな開口部で、出入りのしやすいエンジンルームが現れる。エンジンルームには、V型16気筒、3万6,000ccのMTU 16V-2000-M96Lが2基鎮座する。エンジンルーム中央の天井高は201m。2基のエンジン間のアクセス路の幅は0.56m。エンジン全周に十分なスペースが確保され、メンテナンス性が高く、質の高いメンテナンスやトラブル対処ができるだろう。

*

キャビン入口は自動ドア。ボタンをプッシュするだけで、ゆっくりと開閉

する。波の中でも安全な開閉ができ、両手が使えるメリットもある。6.5mもあるビームから、狭めのキャットウォークを除き、ほとんどを使う広大なサロン。ドアの内側にもウッドフロアが使われ、シューズを履いたままキャビンに入ることができる機能的なもの。その先のサロンは、アメリカの邸宅にいるようなふかふかの絨毯。サロン天井は高く、ポートのキャビンというよりはシーサイドヴィラにでも招かれたような錯覚に陥る。

メインサロン後方は、L字に配置された、8人は座ることができるコンフォータブルなソファラウンジ。通路に飛び出さないダイヤモンド型のカフェテーブル。美しいバーニッシュで仕上げられたチークのテーブルトッ





マーステートキャビンとVIPキャビン、ゲストキャビンには、それにトイレとシャワールーム。2つのクルーキャビンにも共有ではあるが、トイレと独立したシャワールームが用意されている。4か所のトイレとシャワーに洗濯機と乾燥機。快適なアコモデーションがクルーのボテンシャルを上げ、完璧な釣行と快適なクルージングを約束してくれる。



ができる。フラッシュサーフェスなギャレーの側面は一見ミニマルでシンプル、だが、カウンター下の冷蔵庫や吊り戸棚の中に収められたオープンレンジ、その他空いた空間すべてに扉か引き出しが備わり、ストレージとして無駄なく使われている。

ギャレーの横から前方にステップを降りると、くつろぎのアコモデーション。降りてすぐのポート側にはマーステートルーム。クイーンサイズのアイランドベッドと専用のパウダーエリア。トイレと独立したシャワールームがプライバシーを守ってくれる。スター側に回り込むと、左右に分か

れてそれぞれ2段ベッドが備わるクルーキャビン。真ん中には、クルー専用のヘドルームとシャワールーム。それぞれ1,950mmの天井高があり快適。クルーにも独立したシャワールームが備わる贅沢なレイアウトは70フィートのサイズが叶えてくれること。クルーの満足度は、チームを強くする。他との違いはトイレ。エンジンルームにエントリーするためのハッチが備わり、エンジンルーム内に異常を感じた場合にも、クルールームからすぐエンジンルームの点検をすることができる。

ステップを上り、マーステートキャビンの正面にあるのは2段ベッド



のゲストキャビン。その隣には、デイヘッドと兼用となるトイレとシャワーが備わる。そして、Vバースと言われるハウバースはVIPキャビン。クイーンサイズのアイランドベッドと専用のトイレ、専用シャワールームが大切なゲストを快適にもてなしてくれる。オーナー夫妻、VIPカップル、ゲスト2名、クルー4名の10名を迎えることができる快適なアコモデーション、メインサロンやマスターステートキャビン、VIPキャビン、その他の3部屋すべては、HATTERAS伝統の正確で美しいウッドワークで仕上げられている。均質でリュクスなピアノフィニッシュをはじめ、上質なインテリアはコンペティターを凌駕するHATTERASの独壇場だ。



キャビンドアを開け、すぐ右側のラダーからフライブリッジに上がる。動線も無駄がなく見事。フライブリッジは近年のスタンダードでもあるセンターコンソール&アフトヘルムのレイアウト。フライブリッジ後方に並ぶ3

つのパイロットシート。センターのシートがヘルムシート。ヘルムシートのフロアは230mm高く上げられている。21mを超えるビッグサイズでありながら、ハウの先端を確認することができる。ファイティングチェアと同じRELEASE MARINEのクラフトワークで成形された

チークのパイロットシートは、背もたれを外し、バームビーチスタイルのコントロールレバーを操作し、ボートをコントロールすることができる。左右にも同じRELEASE MARINEのパイロットシートが並び、ナビゲートする。

センターコンソールの左右には5人は座ることができるベンチシート。スター側は、バックレストを装着すれば、長時間快適に後方をワッチできるシングルシートになる。センターコンソールの前には前向きに座ることができる4人掛けのベンチシート。最前部には後方を向いた6人掛けのベンチシート。フライブリッジのラウンジスペースは広大。エアコンの吹き出しやアイスピックスも備わり、多くの仲間がフライブリッジでクルージングやトローリングを楽しむことができる。

そしてフライブリッジのセンターコンソールは機能的。左右どちらからでもエントリーできるので、ナビゲーターがヘルムスの邪魔をすることがない。ヘルムステーションは大きく、4台の大型モニターが設置されてい

る。スイッチ類は、どこにも見当たらないすっきりとしたコンソール。スイッチや無線本体は、美しくバーニッシュされたバームビーチスタイルのボッドの左右にあるBOX内に収納され、無線のマイクだけが、すぐに使えるようステアリングの下に固定されている。誤操作を防ぎ、傷みにくいだけでなく、美しい。



*
鳥羽港から坂手島と菅島の間を抜け、加布良古水道を通り、難所の一つ「遠州灘」に乗り出す。スマーズなMTU 16Vは、3万6,000ccの大排気量にもかかわらず、振動やノイズも少なく静かに回転を上げる。デッドスローは550回転で7.62ノット。このクラスのハイパワーボートはデッドスローが速いので、電子制御で減速さ

せ、ルアーを流すこともできる。900回転で11.6ノット。1,200回転で15.7ノット。HATTERAS伝統の5枚ペラが滑らかに回転を上げ、低速から大きいトルク、推進力で、ストレスなく加速する。

1,500回転で22.7ノット。1,800回転で30.1ノットまで上がる。2,600馬力×2基、合計5,200馬力のエンジンは、70フッターには有り余るパワー。さらに、高効率なトンネルハルと5枚ペラにより、70フィートの巨艦を簡単にプレーニングさせ、32～33ノットのクルーズスピードで、外洋のうねりをものともせず、楽々と乗り越え、波を切っていく。クルーズスピードからさらに加速する。2,100回転で36.3ノット、2,400回転で41.1ノット。トップスピードは2,430回転で42ノットをマークした。この余裕により、エンジンロードにマージンを残したまま、35ノットでスタートフィッシングを駆け抜けができるのだ。

*

ノースカロライナのハトラス岬周辺の激しい波で鍛えられてきたHATTERAS。伝統のカロライナフレアとタンブルホームのスタイルを残しながら、軽量化と同時に、高い剛性の船体を造り出す。木造から、世界初のGRPコンバーチブル建造へ。常に一步先をリードしてきたHATTERAS YACHTSのフィロソフィが、最新のインフュージョンやトン

ネルハルを取り入れ、スピードとフィッシャビリティを両立したGTシリーズへの進化を遂げる。GTと名付けられたスペシャルなコンペティションモデルが、HATTERASスポーツフィッシャーのスタンダードとなり、GRPコンバーチブルのベンチマークとなっている。その中でも伝統のHATTERASがフラッグシップとしてフィッシャーマンのニーズに応えて送り出した自信作、GT70。「HATTERAS GT70」は、HATTERASのプライドそのものなのだ。P.B.

HATTERAS GT70

全長 21.49 m
全幅 6.5 m
喫水 1.53 m
重量 54.43 ton
エンジン 2×MTU 16V 2000 M96L
最高出力 2×2,600 HP
燃料タンク 8,101 L
清水タンク 1,249 L
問い合わせ先 HATTERAS YACHTS インターナショナルセールス
日本窓口 Email: hatterasyachts.jp@gmail.com
www.hatterasyachts.com



オーナーの藤田光昭氏とケンマツウラレーシングチーム代表の松浦賢氏。2019年はHATTERAS YACHTSビルダー60周年の記念の年。日本初上陸のGT70を駆り、令和初のJIBTに挑む。